



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 工業規格の決定

5

同業者である北海工業と南海工業は、それぞれ新しい主力製品に A 規格と B 規格のどちらの工業規格を採用するかを検討している。北海工業は今まで製品に A 規格を採用することが多かったため、A 規格のほうが低コストで新製品を作ることができる。したがって北海工業だけの事情を考慮すれば、A 規格を採用するほうが、B 規格を採用するより 2 単位多い利益をあげることができ

る。しかし北海工業の利益は、南海工業が新製品にどちらの規格を採用するかにも左右される。もし北海工業と南海工業の新製品が同じ規格であれば、顧客は安心して北海工業の新製品を買うようになるので、A、B どちらの規格であっても、南海工業と違う規格を採用する場合に比べて、北海工業の利益はさらに 3 単位多くなる。

10

一方の南海工業は今まで B 規格を採用することが多かったため、北海工業とは逆に、B 規格を採用するほうが、A 規格を採用するより 2 単位多い利益をあげることができる。そして南海工業の利益も、北海工業がどの規格を採用するかで影響を受ける可能性がある。無難な個性の商品を作る北海工業と違って、南海工業は特徴のあるデザインの製品を作るメーカーである。両社が同じ規格の新製品を出した場合は、南海工業の製品のデザイン次第で、南海工業の利益は増減する可能性がある。各社の新製品の規格の組み合わせと、その場合の利益が、下の表に示されている。

15

20

		南海工業	
		A 規格	B 規格
北海工業	A 規格	5, X	2, 2
	B 規格	0, 0	3, 2 + X

25

上の表では、各セルの中でコンマの左側の数字が北海工業の利益、右側の数字が南海工業の利益を示している。両社が同じ規格を採用した場合は、南海工業の利益に相互作用の要素 X が含まれる。X の値は -3 または 0 または +3 である。南海工業は X の値が三つのうちのどれである

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 大林厚臣（2012年2月作成）